

市長が行く

茂原市のSDGs

No.154



茂原市長 田中豊彦

11月10日に合同会社茂原ソーラーパークによる太陽光発電所の竣工式が現地にて執り行われました。令和元年から3年半の開発を経て完成し、正式に稼働したのは、今年の4月からとなります。広大な土地に整然と並べられた太陽光パネルは、圧巻の光景です。この用地はそもそも住宅地として申請された土地で、バブル崩壊後、凍結されていたものを住宅地から用途変更し、さまざまな困難を乗り越え、完成にこぎ着けました。その努力に心からの敬意を表します。

この茂原太陽光発電所は、関東最大級の規模を誇るもので、茂原市にとっても税収増をもたらし、SDGsを掲げる茂原市の施策にも適合しているため、今後大いに貢献してくれるものと期待しております。今のところ順調に稼働

し、市内約4万2千世帯のうち1万4千世帯分を賄えるほどの発電量をもたらすと聞き、改めてその規模の大きさに驚きました。実際には、発電した電気は東電に買い取られるようですが、今後蓄電能力が向上してくると、日中に発電した電力を蓄電して、夜間や緊急時の電力供給にも大いに役立つのではないかと期待します。

今、持続可能な世界を目指して、さまざまな次世代のエネルギーが研究されています。例えば、水素エネルギーを使った車の開発なども進んでいるようですが、水素を作り出すことはあまりにもコストがかかり、即戦力となるには今少しの時間がかかりそうです。あるいは、石油に代わる新しい人工石油の研究なども行われているようですが、実用化するのはいくらかの未

来のようなです。

そんな中、太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電等、SDGsに絡んだ自然エネルギーの中で、今現実的にこの茂原市で太陽光発電ができるということにおいて、今回のこのプロジェクトは大きな意味があると考えます。一方税収の面ですが、仮に今回のことで茂原市に1億円の税収増があるとすると、茂原市が交付税(※)交付団体でなければ1億円の税収増につながるのですが、交付税で75%カットされてくるため、実質的には2千5百万円ぐらいになってしまいます。以前にも指摘しましたが、「トンビに油揚げをさらわれる」で、国はもう少し企業誘致した努力を交付税に反映させないと、企業誘致にも力が入らなくなると思うのですが。

※国税の一部から、市の財政状況に応じて交付されるもの